

第3章 思想・宗教

挿絵 19 枚は、各頁に描かれ、絵筆者は清水七之丞・清水七右衛門と記述されているが、他の諸本においては不明である。

「善波邑八幡社縁起」は、寛文己酉（寛文9年）との年紀を持つ。善波太郎重氏は、平安時代末期から鎌倉時代における善波地区の豪族で、「八幡」とは善波太郎重氏の霊を指す。『近世の村と町』（川村優編）では、「落幡村の願人の所持する一冊の和讃をもとにしたものである」、「古代に始まる寺院における本来の和讃というよりも、唱導としてとらえられるものに近かったように思われる。」と記述されている。落幡とは、現在の秦野市鶴巻の小字名を指す。

「下粕屋若宮八幡社縁起」は、本巻の創作年代は不明であるが、別巻は「延喜十七年 丑八月 能条太郎兵衛」とある。縁起に記載された出来事は、仁寿元年（851）頃とされる。東三条左大臣の息男・兵庫頭某が、故あって八幡左大臣の息女をつれて津久井郡の窟に下向した。その後、兵庫頭は入道して諸国を巡り、奥州笠島に斃れたが、息子の岩若丸（兵衛大夫）が当地の豊民・能条太郎兵衛の家を継ぎ、父の兵庫を若宮八幡と崇め現在に至っている、と記載されている。

「石老山頭鏡寺縁起」は、本巻の創作年代は不明だが、「巻末の後記により文明十三年にあらざるやと思われるふし有り。」と記載されている。別巻は漢文体で「享保廿一年源勝恵書すとあり。」との記載がある。

■ 作者

編者である伊勢原市教育委員会は、文化財保護政策の一環として、昭和40年代より伊勢原市内の「縁起もの」を記録に残している。本書の編纂にあたり、縁起類の集録・読み下し・註釈等の実務は古谷秀雄が委嘱された。古谷は、本書編纂当時、伊勢原市文化財保護委員で、『伊勢原市内社寺鐘銘文集』（伊勢原市文化財協会 1980）の著者でもある。

参考文献

『石老山』長谷川一郎著 井上書店 1915 [K291.95/7]

『書かれない郷土史 武蔵・相模を中心とした民俗資料』川口謙二著 錦正

第3章 思想・宗教

社 1960 [K38/6] [382.1/64]

『神道大系 神社編 16 駿河・伊豆・甲斐・相模国』神道大系編纂会 1980
[K17/31/16] [170.8/3/6-16]

『大山不動と日向薬師』宇都宮泰長ほか著 鵬和出版 1981 [K18.64/17]
[N5.2/ウツ]

『木食僧の寺：一の沢浄発願寺』小沢幹著 伊勢原市教育委員会 1982 (伊
勢原市文化財調査報告書 第5集) [K06.64/6/5]

『大山寺縁起』大山寺 1984 [K18.64/23] [N5.2/タ^イ]

『近世の村と町』川村優編 吉川弘文館 1988 [210.5/310]

『伊勢原市史 別編 民俗』伊勢原市史編集委員会編 伊勢原市 1997
[K21.64/7/3-1]

『伊勢原市史 別編 社寺』伊勢原市史編集委員会編 伊勢原市 1999
[K21.64/7/3-2]

川島敏郎「古記録からみた大山信仰の諸相：『大山寺縁起絵巻』・『大山不動
靈験記』を中心にして」（『神奈川県立公文書館紀要』第6号 神奈川県立
公文書館 2008）[K01/71/6]

<デジタル>

国立国会図書館デジタルコレクション

『新編相模国風土記稿 第3輯 大住・愛甲・高座郡』間宮士信等編 鳥跡蟹
行社 1888